

## 「犯罪被害者等支援」についてのアンケート結果

県民誰もが犯罪被害者等となる可能性がある中で、犯罪被害者等が1日も早く、再び平穏な暮らしを取り戻すことができるよう、犯罪被害者等の置かれている立場を理解し、県民総ぐるみにより犯罪被害者等に寄り添ったきめ細かな支援に取り組んでいく必要があります。犯罪被害者等の支援施策に関して、県民の皆さんがどのような意識をお持ちであるかをお聞きして、今後の施策の推進に役立てることを目的にアンケートを実施しました。

★調査時期：令和3年9月

★対象者：県政モニター 298人

★回答数：248人(回収率 83.2%)

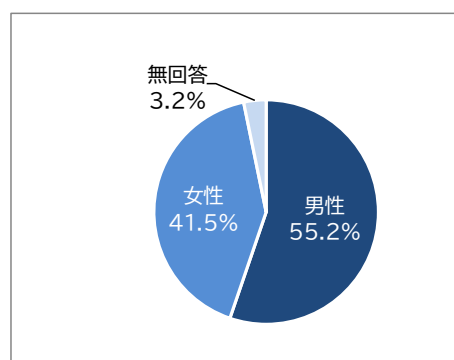
★担当課：総合企画部 県民活動生活課

(※四捨五入により割合の合計が100.0%にならない場合があります。)

### 【属性】

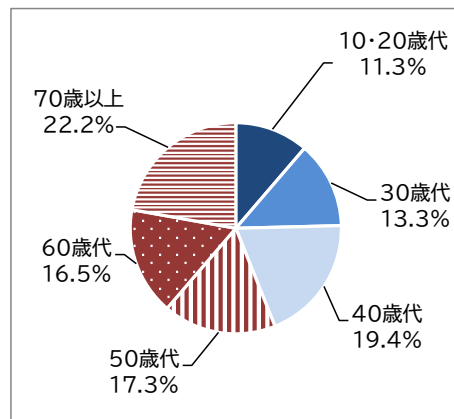
#### ◆性別

項目	人数(人)	割合(%)
男性	137	55.2
女性	103	41.5
無回答	8	3.2
合計	248	100.0



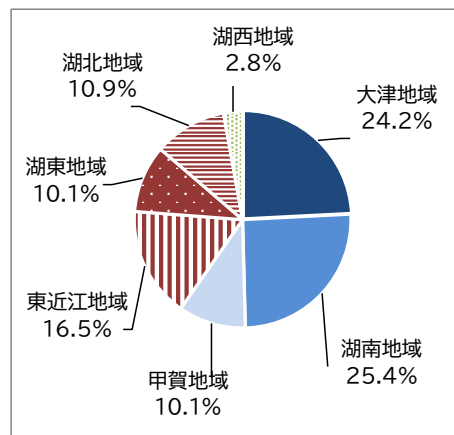
#### ◆年代

項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	28	11.3
30歳代	33	13.3
40歳代	48	19.4
50歳代	43	17.3
60歳代	41	16.5
70歳以上	55	22.2
合計	248	100.0



#### ◆地域

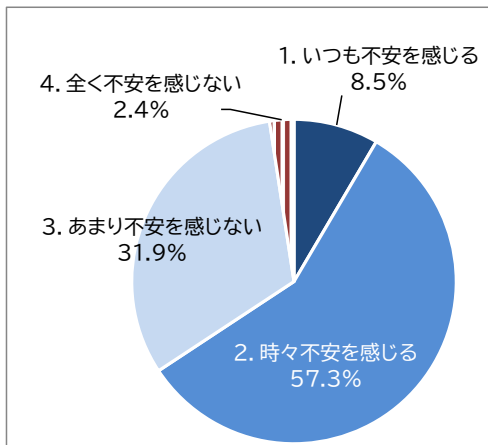
項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	60	24.2
湖南地域	63	25.4
甲賀地域	25	10.1
東近江地域	41	16.5
湖東地域	25	10.1
湖北地域	27	10.9
湖西地域	7	2.8
合計	248	100.0



【問1】

あなたは日常生活において、何らかの犯罪の被害に遭うのではないかと不安を感じますか。  
 (回答チェックは1つだけ n=248)

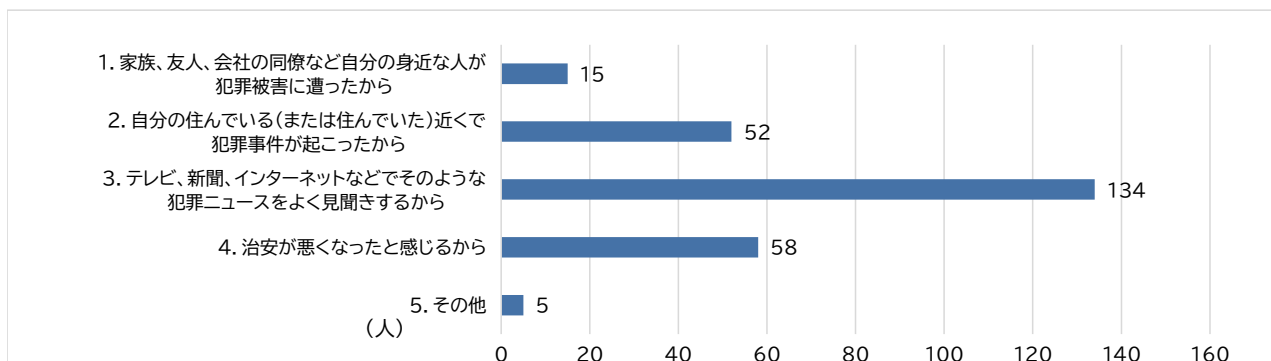
項目	人数(人)	割合(%)
1. いつも不安を感じる	21	8.5
2. 時々不安を感じる	142	57.3
3. あまり不安を感じない	79	31.9
4. 全く不安を感じない	6	2.4
合計	248	100.0



【問2】

問1で「1. いつも不安を感じる」または「2. 時々不安を感じる」と回答された方におたずねします。あなたがそう感じる理由は何ですか。  
 (回答チェックはいくつでも n=163)

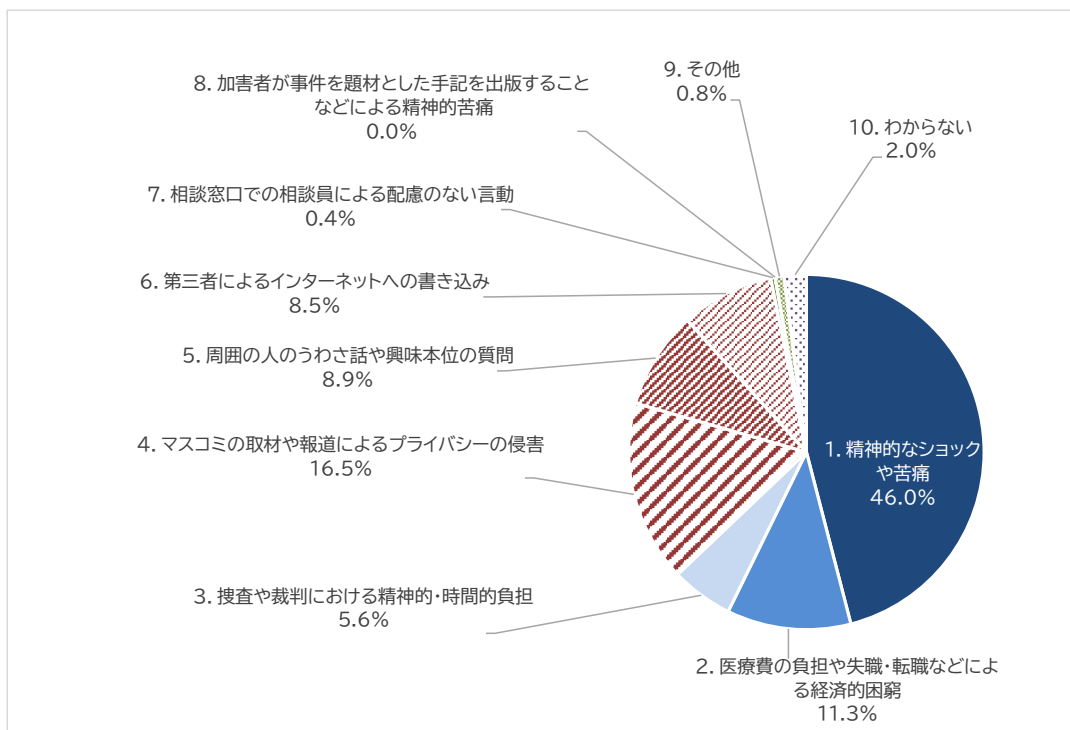
項目	人数(人)	割合(%)
1. 家族、友人、会社の同僚など自分の身近な人が犯罪被害に遭ったから	15	9.2
2. 自分の住んでいる(または住んでいた)近くで犯罪事件が起こったから	52	31.9
3. テレビ、新聞、インターネットなどでそのような犯罪ニュースをよく見聞きするから	134	82.2
4. 治安が悪くなったと感じるから	58	35.6
5. その他	5	3.1



【問3】

犯罪被害者等は、生命、身体、財産上の直接的な被害を受けるだけでなく、いわゆる二次的被害(被害後に生じる様々な問題)に苦しめられます。次の二次的被害のうち、あなたが最も問題だと思うものを選んでください。  
(回答チェックは1つだけ n=248)

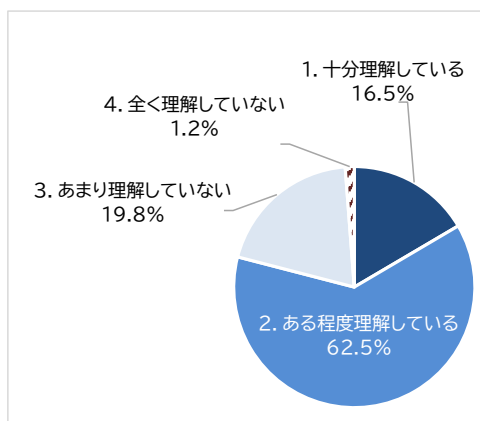
項目	人数(人)	割合(%)
1. 精神的なショックや苦痛	114	46.0
2. 医療費の負担や失職・転職などによる経済的困窮	28	11.3
3. 捜査や裁判における精神的・時間的負担	14	5.6
4. マスコミの取材や報道によるプライバシーの侵害	41	16.5
5. 周囲の人のうわさ話や興味本位の質問	22	8.9
6. 第三者によるインターネットへの書き込み	21	8.5
7. 相談窓口での相談員による配慮のない言動	1	0.4
8. 加害者が事件を題材とした手記を出版することなどによる精神的苦痛	0	0.0
9. その他	2	0.8
10. わからない	5	2.0
合計	248	100.0



【問4】

犯罪被害者等が、犯罪による直接的な被害だけでなく、問3のような二次的被害にも苦しめられるということについて、あなたはどの程度知っていますか。(回答チェックは1つだけ n=248)

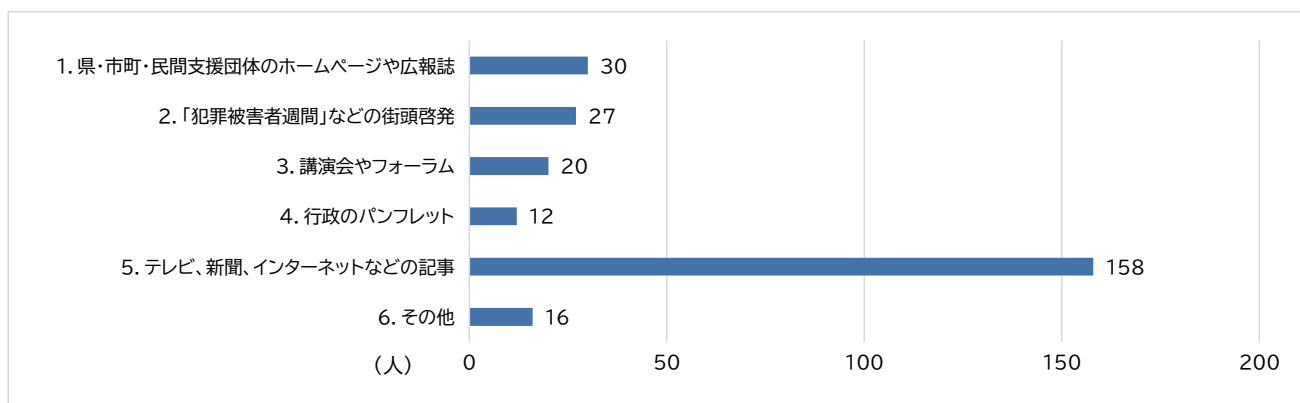
項目	人数(人)	割合(%)
1. 十分理解している	41	16.5
2. ある程度理解している	155	62.5
3. あまり理解していない	49	19.8
4. 全く理解していない	3	1.2
合計	248	100.0



【問5】

問4で「1. 十分理解している」または「2. ある程度理解している」と回答された方におたずねします。あなたが、犯罪被害者等が置かれている状況を理解するようになったきっかけは何ですか。(回答チェックはいくつでも n=196)

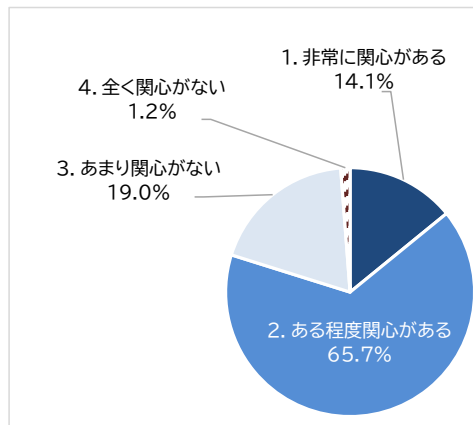
項目	人数(人)	割合(%)
1. 県・市町・民間支援団体のホームページや広報誌	30	15.3
2. 「犯罪被害者週間」などの街頭啓発	27	13.8
3. 講演会やフォーラム	20	10.2
4. 行政のパンフレット	12	6.1
5. テレビ、新聞、インターネットなどの記事	158	80.6
6. その他	16	8.2



【問6】

犯罪被害者等の支援施策として、情報提供や相談を行う総合的窓口の設置、弁護士などによる専門的な相談、見舞金や生活資金の援助などがありますが、あなたは犯罪被害者等支援に対してどの程度関心がありますか。  
 (回答チェックは1つだけ n=248)

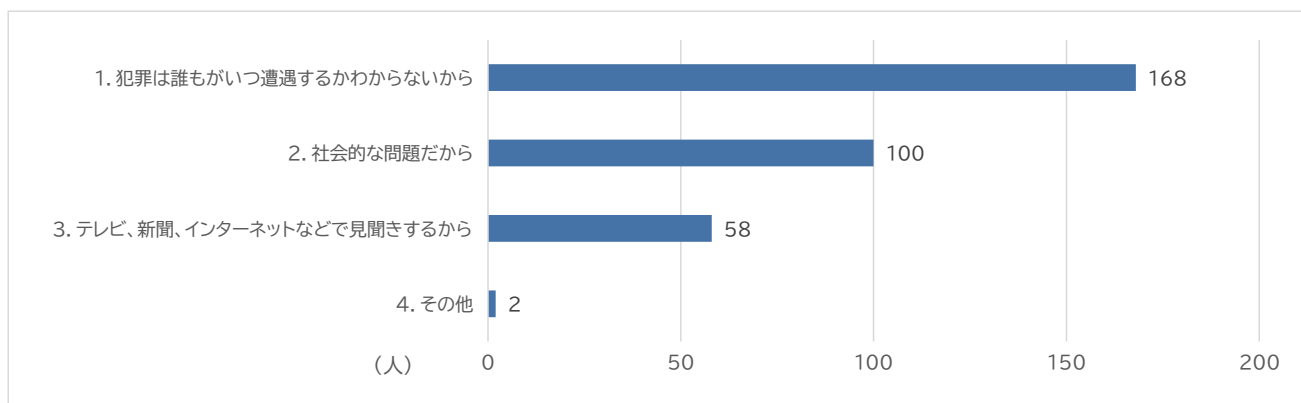
項目	人数(人)	割合(%)
1. 非常に関心がある	35	14.1
2. ある程度関心がある	163	65.7
3. あまり関心がない	47	19.0
4. 全く関心がない	3	1.2
合計	248	100.0



【問7】

問6で「1. 非常に関心がある」または「2. ある程度関心がある」と回答された方におたずねします。あなたがそう感じる理由は何ですか。  
 (回答チェックはいくつでも n=198)

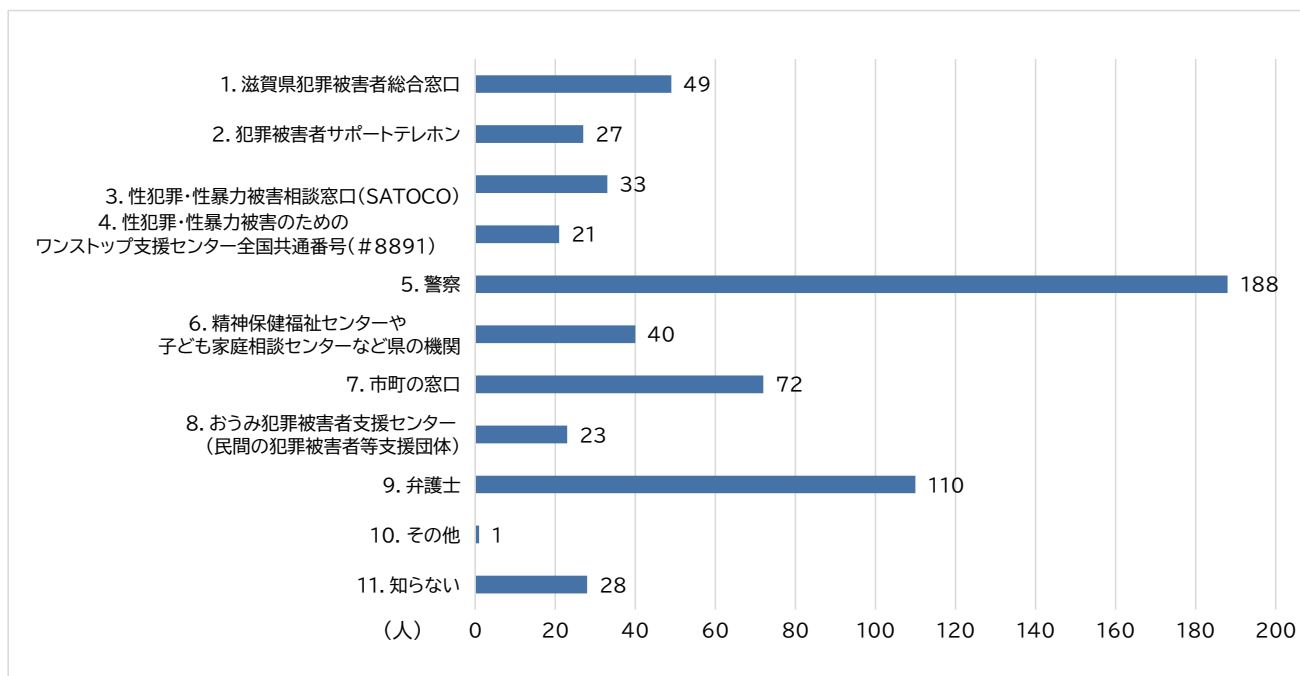
項目	人数(人)	割合(%)
1. 犯罪は誰もがいつ遭遇するかわからないから	168	84.8
2. 社会的な問題だから	100	50.5
3. テレビ、新聞、インターネットなどで見聞きするから	58	29.3
4. その他	2	1.0



【問8】

万が一、あなたや家族が犯罪被害に遭った場合、利用できる相談窓口としてどのようなものを知っていますか。  
 (「11. 知らない」を選択した場合を除き、回答チェックはいくつでも n=248)

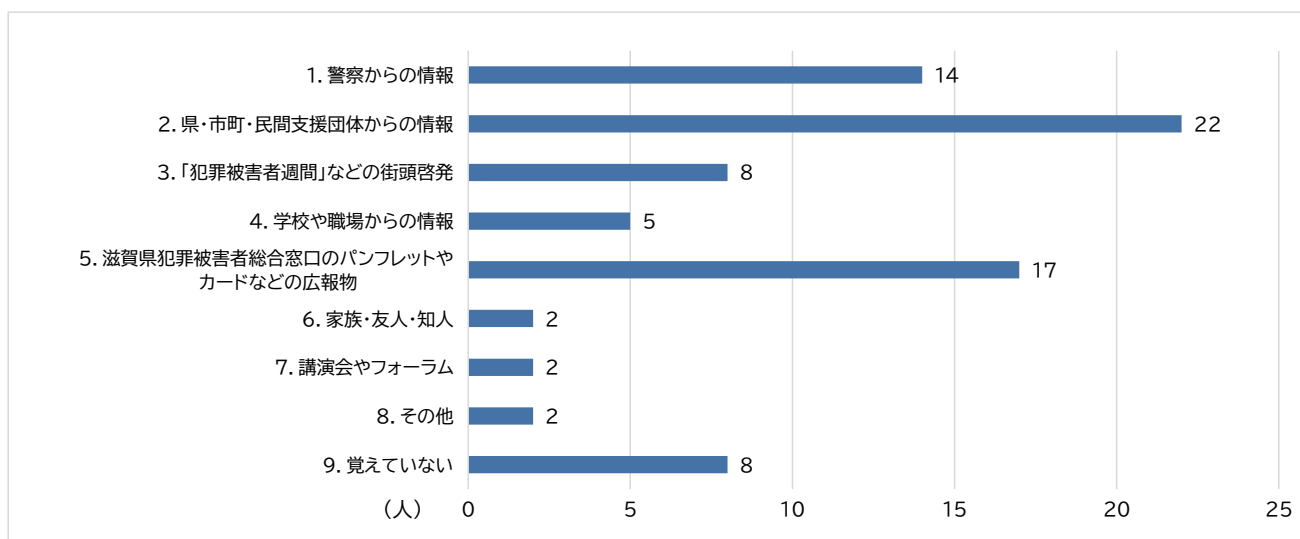
項目	人数(人)	割合(%)
1. 滋賀県犯罪被害者総合窓口	49	19.8
2. 犯罪被害者サポートテレホン	27	10.9
3. 性犯罪・性暴力被害相談窓口(SATOCO) サトコ	33	13.3
4. 性犯罪・性暴力被害のための ワンストップ支援センター全国共通番号(#8891) はやくワンストップ	21	8.5
5. 警察	188	75.8
6. 精神保健福祉センターや 子ども家庭相談センターなど県の機関	40	16.1
7. 市町の窓口	72	29.0
8. おうみ犯罪被害者支援センター (民間の犯罪被害者等支援団体)	23	9.3
9. 弁護士	110	44.4
10. その他	1	0.4
11. 知らない	28	11.3



【問9】

問8で「1. 滋賀県犯罪被害者総合窓口」を知っていると回答された方におたずねします。  
あなたが、「滋賀県犯罪被害者総合窓口」を知ったのはどのような方法ですか。（「9. 覚えていない」を選択した場合を除き、回答チェックはいくつでも n=49）

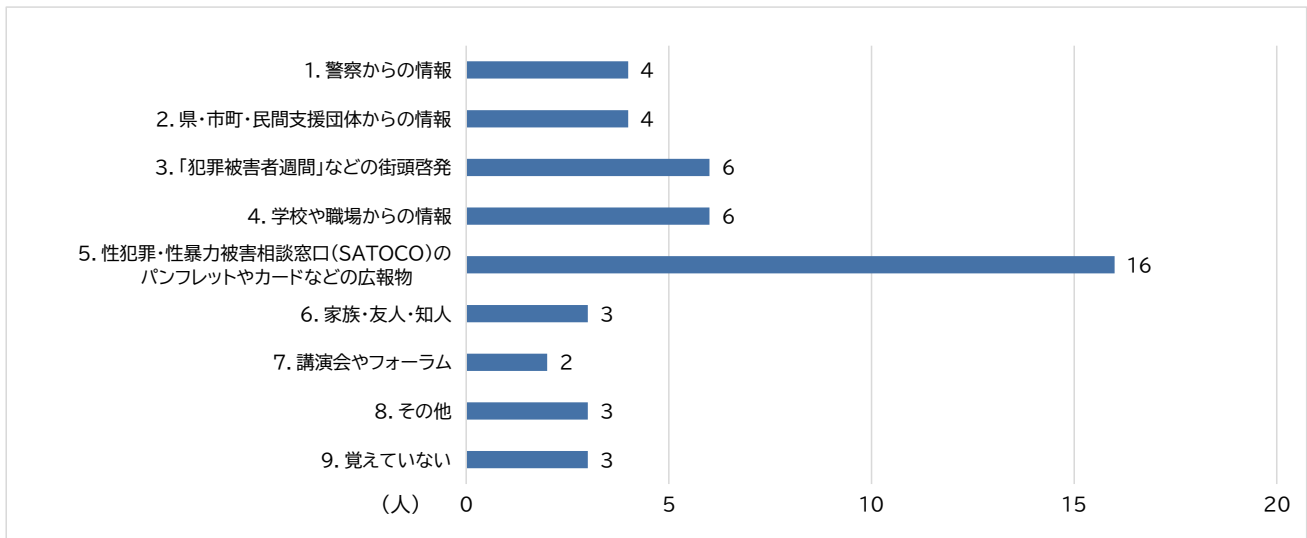
項目	人数(人)	割合(%)
1. 警察からの情報	14	28.6
2. 県・市町・民間支援団体からの情報	22	44.9
3. 「犯罪被害者週間」などの街頭啓発	8	16.3
4. 学校や職場からの情報	5	10.2
5. 滋賀県犯罪被害者総合窓口のパンフレットやカードなどの広報物	17	34.7
6. 家族・友人・知人	2	4.1
7. 講演会やフォーラム	2	4.1
8. その他	2	4.1
9. 覚えていない	8	16.3



【問10】

問8で「3. 性犯罪・性暴力被害相談窓口(SATOCO)」を知っていると回答された方におたずねします。  
 あなたが、「性犯罪・性暴力被害相談窓口(SATOCO)」を知ったのはどのような方法ですか。  
 (「9. 覚えていない」を選択した場合を除き、回答チェックはいくつでも n=33)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 警察からの情報	4	12.1
2. 県・市町・民間支援団体からの情報	4	12.1
3. 「犯罪被害者週間」などの街頭啓発	6	18.2
4. 学校や職場からの情報	6	18.2
5. 性犯罪・性暴力被害相談窓口(SATOCO)のパンフレットやカードなどの広報物	16	48.5
6. 家族・友人・知人	3	9.1
7. 講演会やフォーラム	2	6.1
8. その他	3	9.1
9. 覚えていない	3	9.1

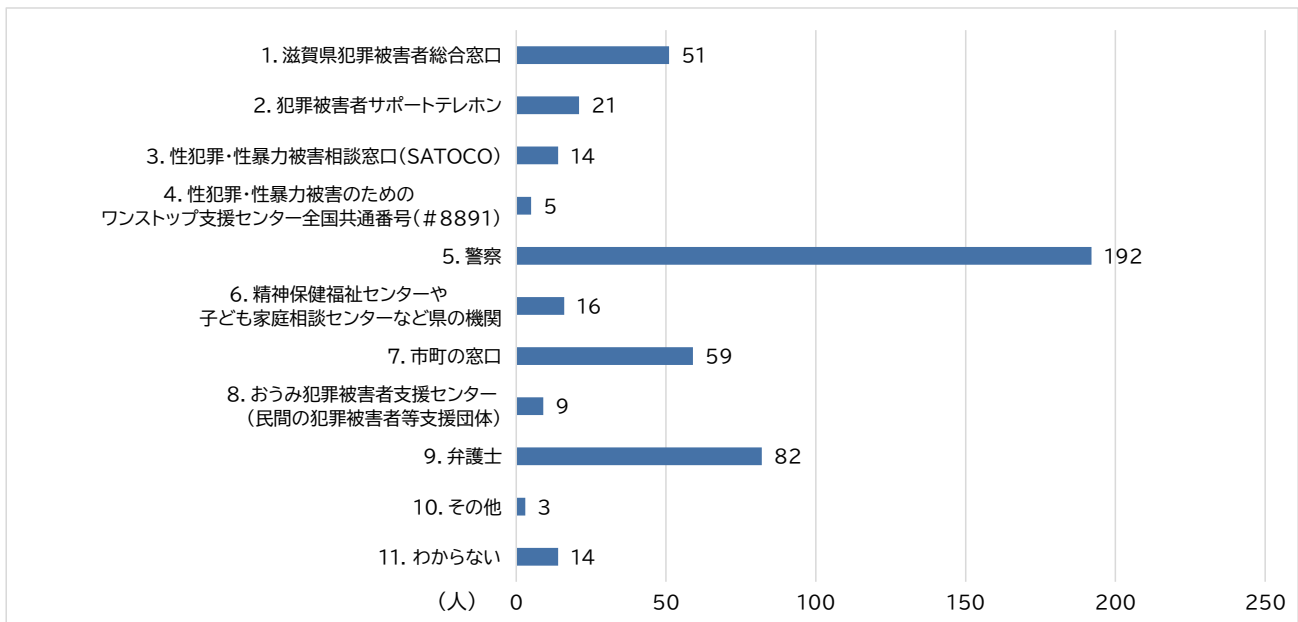




【問11】

万が一、あなたや家族が犯罪被害に遭った場合、どこ(または誰)に相談すると思いますか。(「11.「わからない」を選択した場合を除き、回答チェックは3つまで n=248)

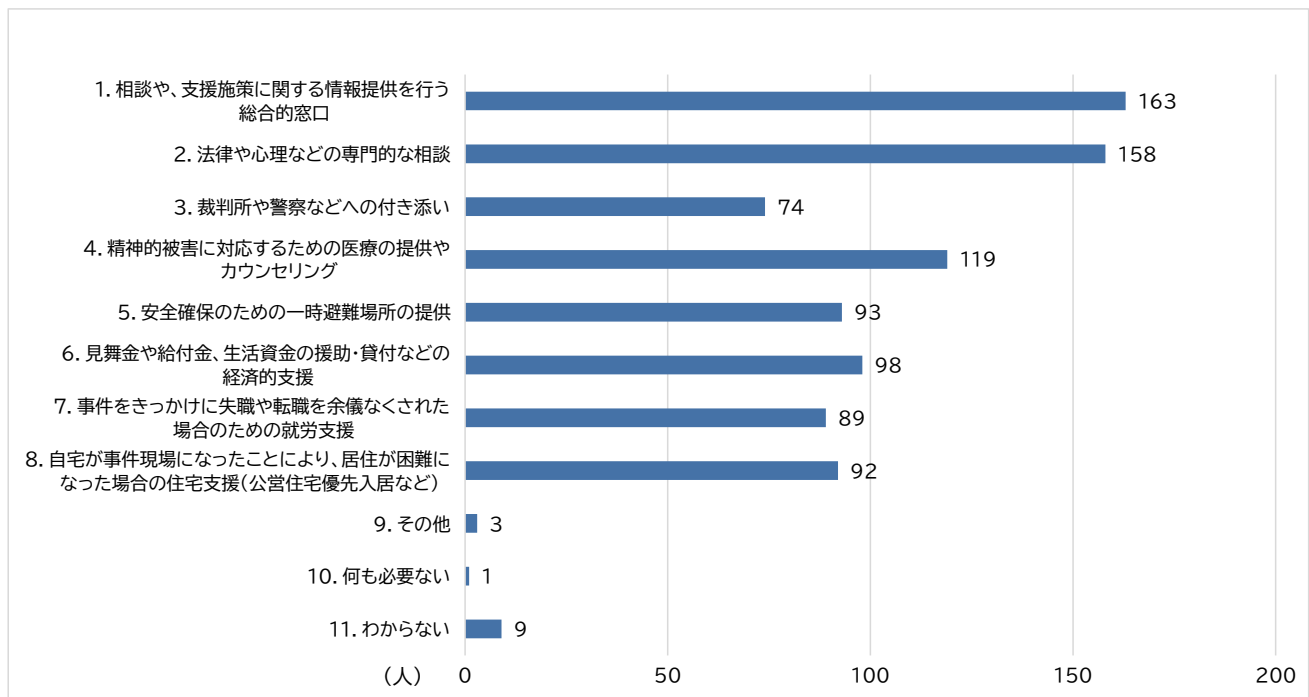
項目	人数(人)	割合(%)
1. 滋賀県犯罪被害者総合窓口	51	20.6
2. 犯罪被害者サポートテレホン	21	8.5
3. 性犯罪・性暴力被害相談窓口(SATOCO)	14	5.6
4. 性犯罪・性暴力被害のための ワンストップ支援センター全国共通番号(#8891)	5	2.0
5. 警察	192	77.4
6. 精神保健福祉センターや 子ども家庭相談センターなど県の機関	16	6.5
7. 市町の窓口	59	23.8
8. おうみ犯罪被害者支援センター (民間の犯罪被害者等支援団体)	9	3.6
9. 弁護士	82	33.1
10. その他	3	1.2
11. わからない	14	5.6



【問12】

万が一、あなたが犯罪被害に遭った場合、どのような支援が必要だと思いますか。  
 (「10. 何も必要ない」または「11. わからない」を選択した場合を除き、回答チェックはいくつでも n=248)

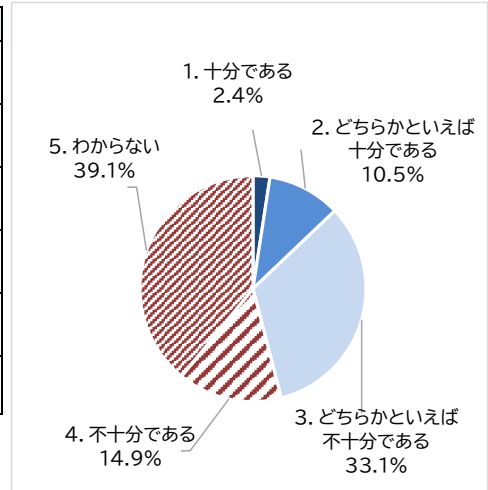
項目	人数(人)	割合(%)
1. 相談や、支援施策に関する情報提供を行う総合的窓口	163	65.7
2. 法律や心理などの専門的な相談	158	63.7
3. 裁判所や警察などへの付き添い	74	29.8
4. 精神的被害に対応するための医療の提供やカウンセリング	119	48.0
5. 安全確保のための一時避難場所の提供	93	37.5
6. 見舞金や給付金、生活資金の援助・貸付などの経済的支援	98	39.5
7. 事件をきっかけに失職や転職を余儀なくされた場合のための就労支援	89	35.9
8. 自宅が事件現場になったことにより、居住が困難になった場合の住宅支援(公営住宅優先入居など)	92	37.1
9. その他	3	1.2
10. 何も必要ない	1	0.4
11. わからない	9	3.6



【問13】

あなたは、現在の犯罪被害者等支援の施策については十分に行われていると思いますか。(回答チェックは1つだけ n=248)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 十分である	6	2.4
2. どちらかといえば十分である	26	10.5
3. どちらかといえば不十分である	82	33.1
4. 不十分である	37	14.9
5. わからない	97	39.1
合計	248	100.0



【問14】

犯罪被害者等支援に関して、御意見がありましたらお聞かせください。(抜粋)

○窓口などの情報をいかに必要な人に届けるかというのが課題だと感じる。被害にあっても誰に、どこに相談したらいいのか分からないという人も多いと思う。

○犯罪被害者となったときに一番困るのは、住んでいる地域の身近な人たちの興味や目に見られること。県の機関に専門的な知識と経験をもった人の育成、配置をお願いしたい。どのような支援を受けるにしても、まず話を聞いてくださる人がいることが第一であると思う。

○犯罪にあうということは日常生活で想定していないので、正直どうなるかわからないと思います。駆け込んでいい場所を教えてくださいと助かります。きっと家には居づらくないと思います。

○相談したいことがあっても、相談することでさらに状況が悪くなることを恐れて、相談できずにいる人も多いと思います。安心して相談できる環境を整える必要を感じます。

○被害にあった場合を想定して、相談窓口を確認しておくことは重要です。また被害者の支援策について、関心をもって、情報を知ろうとする態度も重要と感じました。

○被害者の人権より加害者の人権を優先しているように感じています。犯罪被害者支援の拡充をお願いしたい。

○被害者だけでなく、被害者の家族や親族への支援も必要だと思います。

○自身、家族知人が犯罪被害に会った事はないが、いつ起こってもおかしくない社会情勢である。支援を拡充すべきと考えます。

○SNSへの対策が、早急に必要だと思います。制限なく自由に書き込み拡散されることに憤ります。被害者なのに誹謗中傷されるケースも多くあります。もっと厳しい制度や処罰が必要です。

○ネットの普及により、被害者の個人情報から人となりまで、全国の人が知るところとなるまでであつと言う間です。被害者だけでなく、その家族や周囲の人まで好奇の目にさらされてしまうことも少なくありません。情報を提供する一人一人が、自分のことに一度置き換え、考えることが必要だと思います。

○テレビやネットで見聞きしていて重要性は認識しているものの、身近に犯罪被害者がおられないこともあり、今一つ実感がわかないというのが正直なところです。

○誰でも被害者になる可能性はあるため、もっとやっていることを知ってもらう必要があると思います。

○被害者のその後の暮らしについての困難については知らない人が多くいると思う。そのためどのような困難が生じるのかを広く啓発していく必要があると考える。

○今回のアンケートで初めて聞いた相談窓口がたくさんあった。もっと広報活動にも力を入れてほしい。

○現状では、どういった支援が設けられているのか、知るすべがない。冊子というよりはスマホ向けに発信をお願いしたい。

○職場の女性トイレに、県のDV相談窓口のカードが置いてあるのはとても良いことだと思います。同じように、DVに限らず、犯罪被害者支援についての相談窓口が記されたカードが、学校やスーパー、駅のお手洗い(男女問わず)にあるといいなと思いました。

○一時期はよく目にしていたSATOCOのことを最近は全く聞かないので、学校や企業の研修などで取り上げてもらうなどしてPRを強化し、大人になるのに必要な知識として浸透していくとよいと思います。